

2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年2月2日

上場会社名 積水化成工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4228 URL <https://www.sekisuikasei.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柏原 正人
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 コーポレート戦略本部長 (氏名) 佐々木 勝巳 TEL 03-3347-9618
 四半期報告書提出予定日 2021年2月10日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	86,287	△16.6	1,168	△54.9	1,081	△54.9	610	△59.9
2020年3月期第3四半期	103,514	22.2	2,593	△22.7	2,398	△29.2	1,523	△33.4

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 2,780百万円 (186.4%) 2020年3月期第3四半期 970百万円 (34.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	13.48	—
2020年3月期第3四半期	33.63	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	154,223	69,038	44.1
2020年3月期	149,103	67,217	44.1

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 68,013百万円 2020年3月期 65,685百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	13.00	—	17.00	30.00
2021年3月期	—	4.00	—	—	—
2021年3月期（予想）	—	—	—	17.00	21.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	116,000	△14.8	2,000	△46.3	1,600	△52.8	1,000	△57.0	22.05

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期3Q	46,988,109株	2020年3月期	46,988,109株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	1,630,857株	2020年3月期	1,697,882株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期3Q	45,323,659株	2020年3月期3Q	45,290,779株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2020年4月1日から2020年12月31日)は、世界経済におきましては、2020年1月以降の新型コロナウイルス感染症(以下、本感染症)の拡大によって大幅なマイナス成長になりました。夏以降の経済活動の再開に伴って徐々に回復の兆しが見える地域、業種もありますが、先行きが不透明な状況が継続しています。自動車産業においてはメーカー・サプライヤーの工場稼働率が総じて回復しているものの、地域や国によっては、回復度合いにはばらつきが発生しています。家電・IT関連においては、テレワークが進むことによるパソコン(以下、PC)などの需要拡大が継続しております。日本経済におきましても2020年4月7日の第1回目の緊急事態宣言発令により、経済活動が大幅に制限された一方で、巣ごもり需要が拡大しました。その後、徐々に活動再開に向かったものの、第2波、年末の第3波の感染拡大により、先が見通しにくい状態が続いています。また、海洋ごみ問題をはじめとする課題への対応や政府が2050年度の温暖化ガス排出量目標ゼロを表明するなど更なる環境課題への対応が重要となっております。

日本の発泡プラスチック業界におきましては、本感染症拡大の影響により、巣ごもり需要による食品容器関連の拡大がありましたが、各種部材や搬送資材・梱包材の需要が低迷するなど非常に厳しい経営環境が続いております。経済活動の再開と共に徐々に需要の回復が進んでおりますが、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような厳しい環境のなか、当社グループは本感染症に関して、製品の安全性、取引先企業や当社グループ従業員の安全と健康を第一に考えると共に、それに関するリスクを最大限、回避する対策を取りながら、本年度が2年目となる3か年中期経営計画「Make Innovations Stage-II」に掲げた「事業ポートフォリオの変革」「収益体質強化に向けた戦略の実行」を進化させるべく、施策を進めて参りました。さらに、グループ全体で原価低減や固定費削減に徹底して努めて参りました。

また、環境リーディングカンパニーの位置づけを確固たるものとするため、2020年6月に公表した「SKG-5R STATEMENT」に基づき、SKG-5R(※)活動推進の一層の拡大を図っております。ランニングシューズのミッドソールに採用された「エラストイル」の植物由来グレード「エラストイルBIO」(※)の本格出荷も開始しました。さらに、当社グループの新しいロゴマークとコーポレートメッセージ「人と地球の、美しい未来へ。Our Planet. Our Tomorrow.」を制定し、グローバルブランド展開を一層強化しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は862億8千7百万円(前年同期比16.6%の減少)、営業利益は11億6千8百万円(前年同期比54.9%の減少)、経常利益は10億8千1百万円(前年同期比54.9%の減少)、親会社株主に帰属する四半期純利益は6億1千万円(前年同期比59.9%の減少)となりました。

※「SKG」は積水化成成品グループを指します。

※「5R」はReduce, Reuse, Recycle, Replace, Re-Createを指します。

※「エラストイルBIO」は軽量性、高反発性、柔軟性、圧縮回復性などの高い特性を持った熱可塑性エラストマー発泡体(「エラストイル」)のうち、植物由来のグレードを言います。

以下、各セグメントの業績は次のとおりであります。

<生活分野>

生活分野の売上高は411億9千1百万円(前年同期比7.1%の減少)、セグメント利益は28億3千3百万円(前年同期比13.9%の増加)となりました。

食品容器関連では、本感染症拡大影響により、外出自粛やインバウンド需要の大幅な減少から行楽・観光関連向けの需要が減少しましたが、内中食関連向け需要の拡大傾向が続いており、好調に推移しました。水産関連は漁獲高減少に加え、飲食店向けの需要減により低調となりましたが、農産関連は総じて堅調に推移しました。土木関連では、道路冠水対策や雨水処理用途で採用されている「アクアロード」部材が軽量盛土浮力対策の用途として物件獲得が進みました。

主力製品である「エスレンシート」(発泡ポリスチレンシート)の売上数量は、巣ごもり需要の拡大から、スーパー等の生鮮食品用トレーの需要増に加え、保温性等に優れたテイクアウト容器用途としての需要が伸び、全体として前年同期比伸長しました。「エスレンビーズ」(発泡性ポリスチレンビーズ)の売上数量は、消費者の在宅時間の増加によりクッション用ビーズなどのライフグッズ用途の販売が好調を継続したものの、主要用途である水産分野を中心に前年同期比で減少するなど、総じて低調に推移しました。

利益面では、生活分野全般において本感染症による需要減少のマイナス影響が続きましたが、「エスレンシート」の販売が好調であったことに加え、原価低減や固定費の削減などの徹底したコストダウンに取り組み増益となりました。

<工業分野>

工業分野の売上高は450億9千5百万円（前年同期比23.8%の減少）、セグメント損失は11億3百万円となりました。

自動車関連では、本感染症拡大による年度前半の国内外の自動車メーカーの工場稼働停止、生産調整実施による著しい需要減少の影響を受け、自動車部材、部品梱包材用途の「ピオセラン」（ポリスチレン・ポリオレフィン複合樹脂発泡体）の販売が落ち込みました。自動車メーカーの生産再開に伴い、後半は回復傾向に転じております。Proseatグループについては、低迷が続く欧州自動車産業の影響に、本感染症拡大の影響も加わり業績が大幅に悪化しました。家電・IT関連では、「ピオセラン」を使ったパネル搬送資材・梱包材用途は本感染症により減少の影響を受けましたが、「テクポリマー」（有機微粒子ポリマー）は液晶パネル等の光拡散用途では、在宅勤務等によるPC・モニターの需要増などで堅調に推移しました。医療・健康関連では「エラスティル」（熱可塑性エラストマー発泡体）を使ったランニングシューズのミッドソールにおいて、各国における外出自粛などの行動規制が強化され、販売伸長に影響がありましたが、エラスティルBIOの販売などもあり、回復の兆しが始まっております。「テクノゲル（ST-ge1）」（機能性高分子ゲル）は、米中の貿易摩擦や本感染症拡大による需要減の影響を受け低調な推移となりました。

利益面では原価低減や固定費削減に取り組みましたが、販売低迷による限界利益の減少を補えず、損失となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、1,542億2千3百万円（前連結会計年度末比51億1千9百万円増）となりました。資産の部では、受取手形及び売掛金の増加などにより流動資産が23億7千4百万円増加しました。また、投資有価証券の時価評価額の増加などにより固定資産が27億4千5百万円増加しました。負債の部では、流動負債が、短期借入金の増加などにより32億9千1百万円増加し、固定負債は、長期借入金が増減したものの投資有価証券の時価評価額の増加に伴う繰延税金負債の増加などにより7百万円増加しました。純資産は、その他有価証券評価差額金の増加などにより、18億2千万円増加して690億3千8百万円となり、自己資本比率は44.1%となりました。

当第3四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況については、営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の純増の影響などにより、前年同期に比べ28億7千6百万円収入が減少し、3億9千7百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出の減少などにより、前年同期に比べ9億3千5百万円支出が減少し、28億7百万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金が増減から純増になったことなどにより前年同期に比べ23億5千6百万円増加し、1億5千9百万円の収入となりました。この結果、現金及び現金同等物の当第3四半期連結会計期間末残高は、前連結会計年度末に比べ20億9千4百万円減少し、74億3千8百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期通期連結業績予想は、2020年7月31日公表数値・前提からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,540	7,471
受取手形及び売掛金	27,240	30,985
電子記録債権	4,902	6,219
商品及び製品	8,216	7,542
仕掛品	1,722	1,932
原材料及び貯蔵品	3,866	3,603
その他	2,913	2,998
貸倒引当金	△59	△35
流動資産合計	58,342	60,716
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	16,803	16,347
機械装置及び運搬具(純額)	16,845	15,861
土地	21,182	21,235
その他(純額)	7,069	7,372
有形固定資産合計	61,901	60,816
無形固定資産		
のれん	1,363	1,252
その他	2,101	2,031
無形固定資産合計	3,464	3,283
投資その他の資産		
投資有価証券	18,048	21,822
退職給付に係る資産	5,677	5,908
その他	1,720	1,725
貸倒引当金	△51	△50
投資その他の資産合計	25,395	29,406
固定資産合計	90,761	93,506
資産合計	149,103	154,223

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,135	15,368
電子記録債務	7,575	6,953
短期借入金	6,450	9,717
未払法人税等	282	189
賞与引当金	1,038	481
役員賞与引当金	27	53
その他	7,883	8,921
流動負債合計	38,393	41,685
固定負債		
社債	7,000	7,000
長期借入金	22,211	20,710
退職給付に係る負債	3,446	3,586
製品補償引当金	158	142
その他	10,676	12,060
固定負債合計	43,493	43,500
負債合計	81,886	85,185
純資産の部		
株主資本		
資本金	16,533	16,533
資本剰余金	16,532	16,515
利益剰余金	23,524	23,184
自己株式	△1,426	△1,369
株主資本合計	55,164	54,863
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,226	11,872
土地再評価差額金	1,479	1,479
為替換算調整勘定	△583	△519
退職給付に係る調整累計額	399	317
その他の包括利益累計額合計	10,520	13,149
非支配株主持分	1,531	1,024
純資産合計	67,217	69,038
負債純資産合計	149,103	154,223

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	103,514	86,287
売上原価	80,694	66,810
売上総利益	22,820	19,476
販売費及び一般管理費	20,226	18,308
営業利益	2,593	1,168
営業外収益		
受取利息	4	15
受取配当金	361	311
助成金収入	—	265
その他	148	124
営業外収益合計	513	716
営業外費用		
支払利息	307	296
持分法による投資損失	5	9
為替差損	87	180
その他	308	317
営業外費用合計	708	804
経常利益	2,398	1,081
特別利益		
投資有価証券売却益	1	9
特別利益合計	1	9
特別損失		
投資有価証券評価損	8	1
子会社清算損	—	2
特別損失合計	8	3
税金等調整前四半期純利益	2,391	1,086
法人税等	1,042	941
四半期純利益	1,348	145
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△174	△464
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,523	610

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	1,348	145
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	481	2,646
為替換算調整勘定	△670	70
退職給付に係る調整額	△189	△81
その他の包括利益合計	△378	2,634
四半期包括利益	970	2,780
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,058	3,251
非支配株主に係る四半期包括利益	△87	△470

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,391	1,086
減価償却費	4,646	4,482
のれん償却額	126	125
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△6	△25
受取利息及び受取配当金	△365	△326
支払利息	307	296
持分法による投資損益 (△は益)	5	9
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△604	△557
製品補償引当金の増減額 (△は減少)	△29	△16
退職給付に係る資産負債の増減額	△364	△214
投資有価証券評価損益 (△は益)	8	1
投資有価証券売却損益 (△は益)	△1	△9
有形固定資産除売却損益 (△は益)	43	66
助成金収入	—	△265
売上債権の増減額 (△は増加)	686	△4,776
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△640	804
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,443	△551
その他	△90	441
小計	4,670	570
利息及び配当金の受取額	365	326
利息の支払額	△371	△323
保険金の受取額	102	84
助成金の受取額	—	264
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△1,493	△524
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,273	397
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△4,440	△2,817
有形固定資産の売却による収入	38	10
投資有価証券の取得による支出	△5	△4
投資有価証券の売却による収入	1	18
貸付けによる支出	△0	△1
貸付金の回収による収入	407	1
その他	255	△15
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,743	△2,807
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△10,183	1,516
長期借入れによる収入	9,035	4,723
長期借入金の返済による支出	△4,880	△4,747
社債の発行による収入	7,000	—
配当金の支払額	△1,338	△944
非支配株主への配当金の支払額	△2	△2
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	△1,239	—
その他	△587	△385
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,196	159
現金及び現金同等物に係る換算差額	△558	155
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,224	△2,094
現金及び現金同等物の期首残高	11,271	9,532
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,047	7,438

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

- I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	生活分野	工業分野	計		
売上高					
外部顧客への売上高	44,360	59,154	103,514	—	103,514
セグメント間の内部売上高 又は振替高	509	120	629	△629	—
計	44,869	59,275	104,144	△629	103,514
セグメント利益	2,487	669	3,157	△758	2,398

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△758百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△758百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3. 各セグメントに属する主要な製品の名称

- ・生活分野—— エスレンビーズ、エスレンシート、エスレンウッド、インターフォーム、これら成形加工品、ESダンマット、エスレンブロックなど
- ・工業分野—— ピオセララン、ライトロン、ネオマイクロレン、セルペット、テクポリマー、テクノゲル、テクヒーター、エラスティル、フォーマック、ST-LAYER、これら成形加工品など

- II 当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	生活分野	工業分野	計		
売上高					
外部顧客への売上高	41,191	45,095	86,287	—	86,287
セグメント間の内部売上高 又は振替高	378	87	465	△465	—
計	41,569	45,183	86,752	△465	86,287
セグメント利益又は損失(△)	2,833	△1,103	1,729	△648	1,081

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△648百万円には、セグメント間取引消去1百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△650百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3. 各セグメントに属する主要な製品の名称

- ・生活分野—— エスレンビーズ、エスレンシート、エスレンウッド、インターフォーム、これら成形加工品、ESダンマット、エスレンブロックなど
- ・工業分野—— ピオセララン、ライトロン、ネオマイクロレン、セルペット、テクポリマー、テクノゲル、テクヒーター、エラスティル、フォーマック、ST-LAYER、これら成形加工品など